生涯学習情報誌
-フォンズ-
Fons
No.81 2017年1月10日発行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局
常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL:0294（72）8888／FAX:0294（72）8880

写真：佐川 憲一郎

親沢池の思い出

（S・Y）

現在の親沢池は、毎年蓮の花が咲き誇る季節になると多くの人が訪れ、その美しさに酔いしれている。蓮はかつて、池の一部の場所に控えめに生息し、菱が池一面に広がっていた。真鮒・タイリクバラタナゴ等の魚も数多く生息し、五月の連休の頃には、釣る場所がないほどの人で賑わっていた。夏を迎えれば、チョウトンボ・ショウジョウトンボなどが、ヨシが生い茂る池の縁を悠々と飛び交っていた。ウシ蛙の鳴き声は、辺り一面の静寂さの中に融和し、不気味な鳴き声に聞こえた。

三十年前頃だろうか、外来魚が放流されると、池に生息する多くの生き物が、年を追うごとに減少していった。生態系は大きく変化し、のんびりと糸をたれる釣り人の姿は徐々に見られなくなった。皮肉なもので、この頃から蓮が増え初めたのである。今では、菱やヨシはほとんど見られず、池一面が蓮で覆われるようになった。池は再びかつての賑わいを取り戻したのである。しかし、四季折々の美しい風景の中に、ひっそりと佇む親沢池の雄姿を知る者にとっては、栄枯盛衰の悲しさに思いを馳せずにはいられない。

フォンズとは…ラテン語で泉の意味です。とぎれることなく新鮮な情報がお届けできるようにと名付けられました。

特集

常陸太田の四季を歩く～秋・冬編～

千寿 親沢池親水公園～元金砂神社

常陸太田は関東平野と阿武隈山地が出会う場所。常陸太田は豊かな歴史と自然にあふれています。その豊かな自然を身近に感じられる、フォンズスタッフが実際に歩いてみた秋と冬にお勧めの小散策を紹介します。

〔安嶋 隆、五十嵐弘、鴨志田弘子、黒澤貴子、黒羽文男、高橋靖浩、武藤千絵子〕

なだらかな自然道と木々や野草、元金砂神社の狭くて段差のある石段と鎮守の森、千寿窯からの展望、フユイチゴの群生、落葉のフカフカ道…　自然を楽しみながら歩いてみませんか。

元金砂神社の林
スダシイ、シラカシなど。常緑の木々がおいしげり昼でも薄暗く、落葉樹の木々の間を抜けてさしこむ太陽の光が美しい。

シラカシの林

コナラの林

大ケヤキ
推定樹齢500年

オニフスベ
フスベは瘤（こぶ）の意味。大きなこぶ状のきのこなので「鬼の瘤」という和名がついた。ドッチボール程の大きさで茶色。さわると胞子が煙のように舞った。

9月にはヒガンバナが美しい

昔ながらの土手
日本の里の原風景

カラスザンショウ
（ミカン科）烏山椒
サンショウに比べ、木も葉も実も大きいので、カラスを連想した名前。

オオバタンキリマメ
（マメ科）大葉痰切豆
果実に痰（たん）を切る作用があるといわれているが、効き目は不明。

キジョラン
（ガガイモ科）鬼女蘭
絹糸のような毛をつけた種子を鬼女の顔にたとえた。ランの仲間ではない。

オオバジャノヒゲ
（ユリ科）大葉蛇の髭
細長い線形の葉を竜の髭にたとえた。別名リュウノヒゲ。栽培品種もある。

キツネノマゴ
（キツネノマゴ科）狐の孫
キツネに関連した名前と思われているが、由来については不明。

ムラサキシキブ
（シソ科）紫式部
秋に紫色の実をつける。コムラサキは栽培種で実が密集する。

ヤマハッカ
（シソ科）山薄荷
ハッカに似ていて、山に生えることに由来するが、香りはほとんどない。

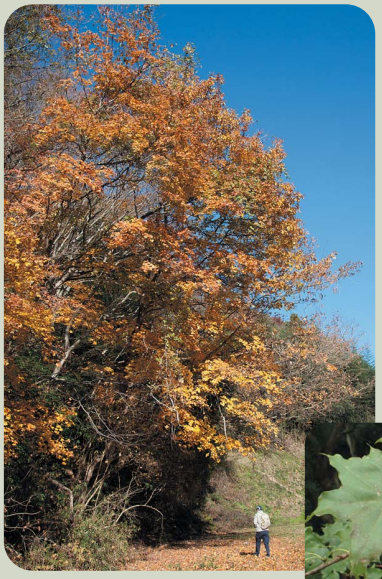
アオツヅラフジ
（ツヅラフジ科）青葛藤
秋になると、葡萄の様な果実をたわわに付け、人目を引く。食べられない。

ノハラアザミ
（キク科）野原薊
秋に咲くアザミには数種類があるが、土手や草原では最も目立つ。

ユウガギク
（キク科）柚香菊
柚の香りがする菊の意味であるが、葉をもんでみても香りほとんどしない。

キクタニギク
（キク科）菊谷菊
京都東山の菊渓に多く自生していることとによる。別名アワコガネギク。

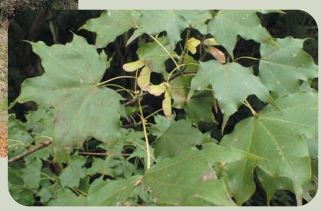
ツリガネニンジン
（キキョウ科）釣鐘人参
釣鐘形の花を咲かせるのでこの名前がある。ニンジンの仲間でない。



はらはらと舞う木の葉
（イタヤカエデ）

元金砂神社

祭神は大己貴命と国常立命と少彦名命。大同元(806)年に天台僧の宝珠上人が、凶作と疫病の流行を憂え、近江国日吉山王権現を遷祀したのが起りという。金砂元宮とも元金砂神社ともいわれている。

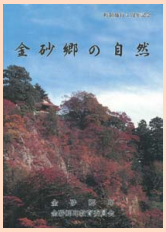


イタヤカエデの葉

フユイチゴ（バラ科）の実

■路傍や土手をよく見ると多数の秋の花や実が見られます。

「金砂郷の自然」は、この地域の植物について詳しく判りやすく説明しています。植物のハンドブックをお持ちになると楽しい散策ができると思います。



「金砂郷の自然」は図書館で貸出されています。

スズキとオギの群生

親沢池親水公園へ

アズマヤマアザミ
（キク科）東山薊
東日本に咲くヤマアザミの意味。花のつき方に特徴がある。葉には刺が多い。

ススキとオギ（イネ科）の違い

ススキとオギはよく似ていて、オギをススキだと思いこんでいる人が結構多いと思います。河原付近ではこの2種類が混生しています。お月見には区別して供えましょう。

①生育地は
ススキは山野、路傍、河原などの至る所に生え、オギは主として河原や堤防のようなすこし湿った所に生えます。

②生え方は
ススキは根元から多数の茎が伸びますが、オギは横に伸びた根茎から1本ずつ立っています。

③花（1つ1つの花を小穂といいます）は
小穂の基部にある毛が、オギの方が白くて長いので、明らかに白く見えます。

④その他
小穂の先端の毛の有無や茎の根元の様子などでも区別できます。

ススキ（左）、オギ（右）

冬の久米城跡の散策

久米町の鹿島神社付近を中心にして集落を囲むような北東の丘陵に久米城は築かれていました。久米町・鹿島神社～久米城跡の自然と歴史にふれることができる散策コースを歩いてみませんか。未来へつなぐ久米城跡保存会の方々の案内を頂くといっそう楽しむことができます。

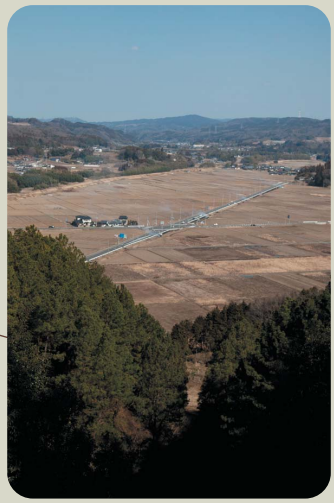
の城の間の谷
群生する

北米産のマツが植林されてカサにトゲがあるマツボックリが見られます。

北の出城

土塁（どるい）
土を盛り上げて築いた遮蔽物（しゃへいぶつ）で柵とともに各曲輪（くるわ）を囲む重要な施設である。

西の城
◇テレビ中継所



物見台からの眺め（山入城、東金砂山を望む）

最大の堀切

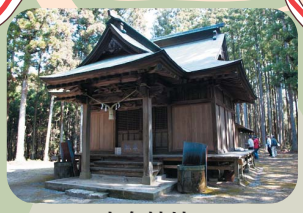
本城跡（佐竹の旗がひらめいている）

本城

東の城

二重堀切

鹿島神社



鹿島神社

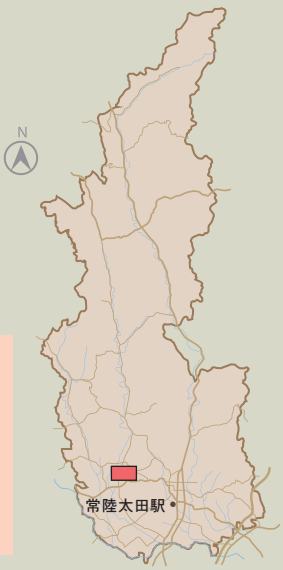
※大晦日から新年早朝まで地元鹿島会のみなさんが境内でお屠蘇などをふるまっています。

堀切
山の尾根や台地づたいの侵入を防げるための施設で、尾根や台地を横断するように掘られた堀。
「二重堀切」は堀切を連続して二重に造ったもので、堅個に侵入を防ぐときになされる普請。

横堀

南の出城

山の神
一般に大山津見神（おおやまつみのかみ）を祭神として祀り、山を守護する神として信仰された。旧の正月六日に行う山入りの行事では供物をもって山に入り山の神に供え、その年一年間の山仕事の無事息災を祈願したという。



■冬に目立つシダ植物

イノデ

イワガネゼンマイ

オオバノイノモトソウ

ゲジゲジシダ

ハリガネワラビ

フモトシダ

ベニシダ

ミツデウラボシ

ヤブソテツ

ヤマイタチシダ

「未来へつなぐ久米城跡保存会」代表の岩間 昭さんにお話を伺ってきました。

代表の岩間 昭さん

■どういった思いで？

久米城が貴重な歴史遺産であることは、分かっていました。中世城郭ファンの人たちが鹿島神社の参道を利用して訪れていましたが、シノ竹等が生い茂り十分に見学する事ができない状態でした。そこで、この歴史遺産を復活させようと、平成22年の秋から２人で神社周辺の伐採から整備を始めました。２年間は、秋から翌年春まで雨が降らない限りほぼ毎日少しずつ進めて来ました。

そして平成24年の秋、市のエコミュージアム「お宝探し」事業に名乗りをあげ、7名の会員で正式に会を立ち上げました。

■整備の進捗状況は？

当初、ふたりで始めた計画からみると100％以上の達成率ですが、達成率70％というところでしょうか。実際に整備を進めていくと、ここまでかなと思っていても、「もう少し、もう少し」と欲が出てきちゃうんですよ。だから、これからも達成率70％残30％が続くのかな。

■整備を続けるエネルギーは？

来訪者のメッセージだと思います。有名な古城ファンのブログで取り上げてもらい、コースの整備状況にお褒めをいただいたこともあります。駐車場にアンケートボックスを設置しているのですが、久米城、佐竹氏に関する驚きや感嘆の言葉に混じって、コースの案内板、整備状況、設置してある手作りの杖等に対する感謝の言葉をいただくこともあります。

そのメッセージが達成率70％につながっているのだと思います。

※久米城跡散策の案内をご希望の方は下記へご連絡ください。日程調整を行いご案内いたします。
0294-76-3767（未来へつなぐ久米城跡保存会 会長 岩間　昭）

久米城

築城年代は定かではありませんが、鎌倉時代に大掾（だいじょう）氏が館を構えたのが始まりと伝えられています。その後、小野崎氏系の久米氏が代々居城としていました。その後、佐竹氏は山入城主の山入氏に対抗するため、久米氏を部垂城（へだれじょう）へ移して佐竹義治の子又三郎義武を久米城へ置いて守らせました。

文明10年（1478年）山入義知が久米城に攻め寄せ、城主の義武や小田野義安が討死し久米城は落城しました。しかし、佐竹義治が自ら軍勢を率いて久米城を奪還し山入義知を討ち取り、奪還した久米城には義武の弟義信を入れ、この家系が佐竹北家と呼ばれて代々続きました。その後、佐竹氏の秋田転封に従って移り廃城となりました。

●スタート地点
大人の足で約３時間のコースです

学校訪問

瑞竜中学校

五十嵐 弘・黒澤 貴子

瑞竜中学校は、昭和三十九年四月に機初中学校と佐都中学校が統合して現在の地に誕生しました。現在は各学年三クラス、総生徒数二百七十八人（平成二十八年十一月現在）の生徒が学んでいます。

瑞竜中学校にお邪魔して、生徒会長の東川惟夢さん、副会長の根本蘭さん、齋藤一輝さん、常任委員の江間隼人さん、橋本里伊子さん、増田萌花さん、森清悟さんにお話を伺って来ました。

初めは少し緊張していた皆さんが、時間が経つにつれ、ときおり笑顔を交えながら熱心に話をしてくれました。

前列左から
橋本里伊子さん、根本蘭さん、東川惟夢さん、江間隼人さん
後列左から
増田萌花さん、齋藤一輝さん、森清悟さん

瑞竜円陣

瑞竜中学校では「あいさつ運動」と「グッドマインド活動」を積極的に進めています。

「あいさつ運動」ではあいさつ日本一を目指して活動し、地域の方々からも瑞竜中の生徒は良い挨拶が出来ていると評価され、とても嬉しく思っています。

「グッドマインド活動」とは、生徒が見聞きした良い行いを、各クラスに常備した「グッドマインドノート」に記入し合い、よりよく行動しようとするグッドマインドを全員で共有しようという活動です。

その他に瑞竜中学校は一つのチームだという考えの「チーム瑞竜」という意識を全員が持っています。その一つの象徴として「瑞竜円陣」があります。総体・新人戦の壮行会などで、先生・生徒全員が大きな円陣をつくって心を一つにするセレモニーです。

このような活動の成果の一つとして、体育祭や瑞雲祭の実行委員を募集すると、毎回のように百人以上の応募があり、全員が積極的に運営に関わってくれます。

瑞竜中学校は横の繋がりが強いだけでなく、縦の繋がりである先輩と後輩の結びつきも強い伝統があります。だから、この瑞竜中らしさが代々伝わっているのだと思います。

そして、自分たちもこの伝統を後輩へしっかり伝えていきたいです。

文化の泉

常陸太田少年少女合唱団

黒羽 文男

常陸太田少年少女合唱団は、市内の小学生や中学生が、学年や学校の枠を超えて楽しくハーモニーづくりをする目的で、二十四年前に発足しました。年間の主な出演は、常陸太田市民音楽会やふれあいコンサート、県少年少女合唱祭、生涯学習フェスティバル、桃源花菖蒲コンサート、教育振興大会オープニング行事、老人介護施設訪問、パルティ各種コンサート賛助出演等です。未来を担う子ども達にハーモニーづくりを通して協調性、感性が磨かれ、またステージに立つことで程よい緊張感や達成感が味わえる事で心の豊かさが身について行くと思います。

常陸太田少年少女合唱団では団員を募集しています。

■対 象 者　常陸太田市内小学２年生から中学生
■練 習 日　月3回、土曜日午前9時30分から午前11時30分
■練習場所　パルティホール等
■団　　費　年会費6,000円（小学生）2,000円（中学生）
■入会連絡先
団　長　森　右博（0294－72－5828）
指導者　市毛 武子（0294－74－4008）
常陸太田市教育委員会文化課（0294－72－3201）

「思い出の絵本」『ゆびたこ』

鈴木 真紀（塙町）

「思い出の絵本って…」私は絵本が好きなので、一冊に絞るまでにいろいろ迷いましたが、子ども達と相談してこの『ゆびたこ』を選びました。最初にこの本に出会ったのは図書館で、娘が「この本すごいの！おもしろいんだよ」と教えてくれたからです。娘の友達の妹が、この絵本を読んでもらってから指しゃぶりを止めたそうです。その頃、息子は爪を噛む癖があったので、娘も弟にももしかして効果があるかな？と思った様子。

この表紙のインパクトの大きさに私はすぐ絵本を手に取りました。指しゃぶりの止められない主人公の女の子の親指に突然顔のあるゆびたこが現れて、女の子の前でだけ二人で会話をするのです。しかもおかしな関西弁で！指しゃぶりを止めようと必死に頑張っている女の子にゆびたこは「たのむ。わいは もう きえてしまう。さいごに いっかいだけ ゆび すってくれ…」とお願いします。吸ってもらうと急に元気になり、これでもかというぐらい画面いっぱいにゆびたこが現れる場面がお気に入りで、大笑いしながら見ていた我が家の子ども達も、もう四年生と六年生。あの当時をなつかしく思いながらページをめくってみました。結局、絵本の影響ではないのですが、いつの間にか息子も爪噛みをしなくなっていたのも今では良い思い出です。

私は、保育士をしています。クラスでも『ゆびたこ』を読み聞かせると、みんなドキドキしたり、笑ったりしながら楽しく見ています。絵本を見ながら口に入っていた指をそぉーっと離す子、中にはゆびたこに会ってみたくて指をくわえてみる子も…

仕事柄、いろいろな絵本と出会いますが、初めて娘に教えてもらった記念の一冊。これからも大好きな絵本として大切に活用したり、時には思い出に浸ったりしていきたいと思います。

ほっと ひといき

『ヤマウルシとツタウルシ』

安嶋 隆

野外観察会等での注意事項に「マムシ、ケムシ、ヤマウルシに注意!!」があります。

このうちヤマウルシは市内各地に生育し、皮膚がかぶれる植物として最も嫌われているようです。よく似た種類のツタウルシはつる性の三枚葉が特徴で、ヤマウルシ以上に危険な植物です。両種とも春の新芽が出る頃はかぶれ易いのですが、秋の紅葉の頃はあまりかぶれないと言われています。

ところで、ヤマウルシとツタウルシはカエデ類以上の見事な紅葉になることはあまり知られていません。さらには同じ仲間のヌルデやハゼノキの紅葉も見事です。

ヤマウルシ（上）とツタウルシ（下）

ちょっと ひといき

『小倉屋食堂』

五十嵐 弘

ご両親が切り盛りするお店に現オーナーの田仲昭一さんが帰ってきたのが二十三年前。すぐに月替わりメニューを始めましたが、さらなる挑戦をと平成二十二年から始めたのが「諸国漫遊メニュー」です。月替わりでその県の特徴・名産等を取り入れたメニューを提供しています。メニューを決めるためにその県の自治体からパンフレット等を取り寄せ、内容を吟味して七種類のメニューを決めているそうです。有名な食材がある県は決めやすいのですが、なかなか決められない県もあるそうです。

県の順番はその月に旬な食材がある等、その料理をおいしく召し上がっていただける季節に合わせているそうです。

二順目に入った「諸国漫遊」十二月は長野県でした。今年の一月は何処の県なのでしょう？楽しみです。

■住　所　常陸太田市高柿町 331-4
■電　話　76-2035
■営　業　午前 11 時～午後 2 時
　　午後 5 時～午後 8 時
■定休日　日曜日

12 月は長野県「キノコおろしハンバーグ」

常陸太田の地名話 24
西宮（にしみや）『常陸太田市西宮町』

川松 博

「西宮神社由緒書」によると、むかしこの地は人海に近く、岸辺に葦が生い茂っていたので葦津圻村といっていた。

近くの里川の河口に白衣を着た老翁がたびたび釣糸をたれているのを村人が見つけ、不思議に思い尋ねてみると、「私は西の都の釣人です」とおっしゃった。その老翁が去ったあとに木像が残っていたので村人たちは「これは西の宮の神、夷児（えびすこ）に違いないと川近くの森に安置し祀った。これが西宮神社とそれに記されている。それから、この神社が建っている地を西宮と称するようになったといわれている。

地名のもとになった西宮神社

〈参考文献〉「新編常陸国誌」「茨城県地名大辞典」「常陸太田市史 民俗編」「西宮神社由緒書」

新太田点描 17

秋庭夫人の瑞龍山参り

万延元年（一八六〇）八月、水戸藩九代藩主徳川斉昭が死去すると、烈公と諡号（おくりな）されて瑞龍山徳川家墓所に埋葬された。烈公の側室万里小路睦子は落飾して秋庭夫人と称するようになった。もとより睦子は京都の公家万里小路大納言建房卿の娘で文雅の素養が深く、烈公の子四男一女を産んでいる。そのなかで余八麿（昭武）は十一代水戸藩主の座に就いている。

ところで、秋庭夫人睦子は烈公没年の翌年十一月八日に墓参のために水戸を発っている。この時、瑞龍山までの道すがら、気の付いたことや心に留めたことを和文と和歌を織り交ぜ流麗な文体で書き綴っている。が、ここでは本文中に詠み込まれている和歌を抄出して原文のまま紹介するので、現今からみると不馴れな文使いだが当時の雰囲気を感じ取っていただきたい。

―・―・―・―・―・―・―・―・―

水戸出立

たひころもまた立いてぬほとたにも
　袖に袂にあまるしらつゆ

那珂川青柳の渡にて

つたえ聞其なはかりはむかしにて
　よるかけもなき青柳のさと

菅谷にて

雨とふる人のなみだのかさにぬふ
　すかやと聞くとかいなかりけれ

久慈川を舟て渡る

座清くすめるかわいの水の面は
　にこるこころをなかしてとかな

谷河原

香をとめてくる人もなきささかにの
　いとは玉ぬく野辺の白つゆ

太田落雁

秋かせにいろつき渡るやつかふの
　かつたに今やおつるかりかね

瑞龍山のふもとにいたり

月日ともあふきし君かかくれます
　いわ戸明てん手ちからもかな

たき物のくゆるけふかのあとはにも
　消えてかなしきけふにも有哉

鳥のねもきこえぬ山に君を置て
　心もそらにかえるかなしさ

いはむろにきこしめすらん松の風
　谷の水ともなかれてんかな

露しけき山路に生ふるなてしこの
　はなこそはきてかなしかりけれ

義公の墓に参りて

世を捨て入にし君か跡とへハ
　むかしなからのまつ風そふく

夢にのミ聞しまゆみの山のはを
　手にとるすすりけふみつるかな

しき島の大和こころのおおしさを
　代わりにひろむる君そかしこき

かけてたにおもはぬよハの袖の露
　はかなかりける身のちきりかな

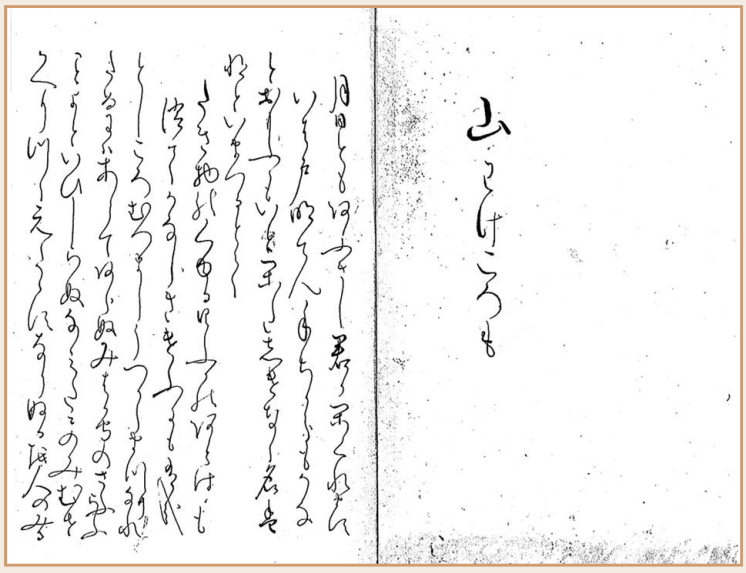
さりともとたのみしよはの夢路さえ
　たえては君をみるよしもなき

秋きりのはるる時なきおもひにも
　山はけころも知るにあらしな

―・―・―・―・―・―・―・―・―

ところで、この本の表題は『山はけころも』となっているが、これは本文中の歌の一節から採ったものであろう。また末尾には「ちか子」と署名している。

（吉成英文）



表紙と内容の一部